

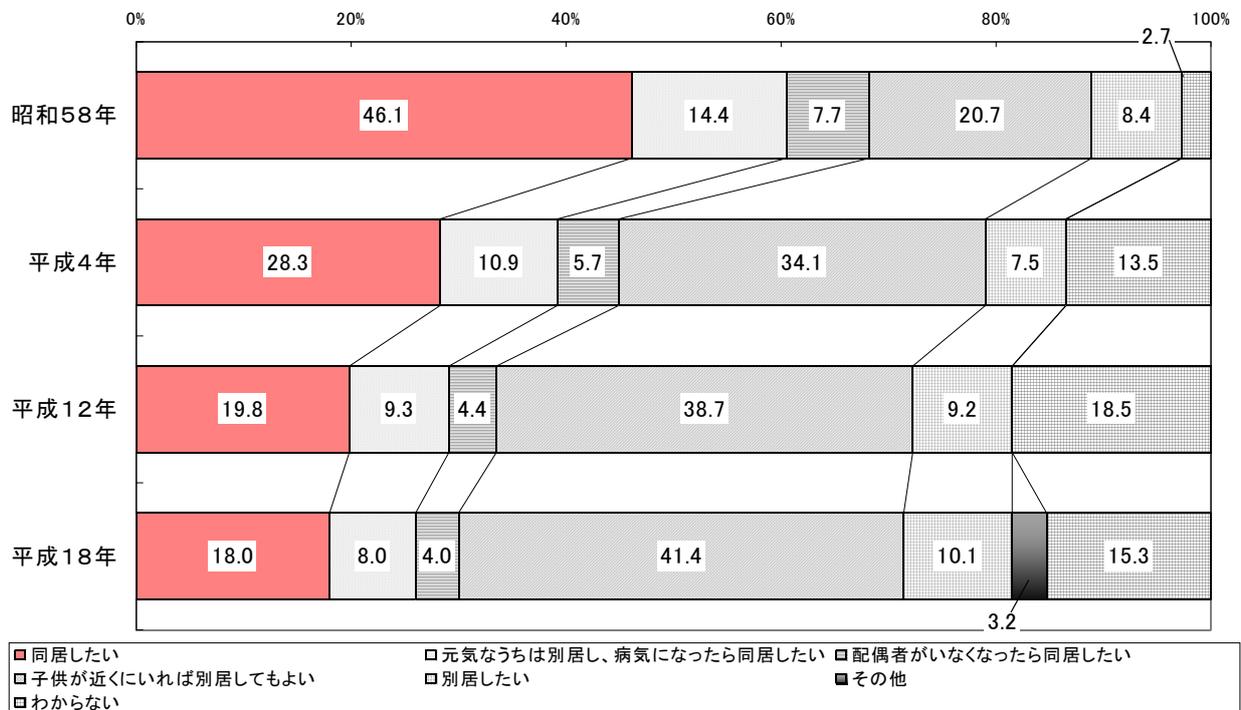
8 老後生活における子どもとの同・別居について

・子どもとの同居希望が減少傾向

現在、子どものいる者について、老後生活での子どもとの同居意識をみると、同居を希望する割合は30.0%となっており、過去の調査結果と比べると、減少傾向となっている。

同居を希望する者の内訳をみると、条件なしで「同居したい」とする者の割合が18.0%、「元気なうちは別居し、病気になったら同居したい」が8.0%、「配偶者がいなくなったら同居したい」が4.0%となっている。一方、別居を希望する者の割合は51.5%で、その内訳をみると、条件なしで「別居したい」が10.1%、「子どもが近くにいれば別居してもよい」が41.4%となっている。

図 1 1 老後生活における子どもとの同・別居について



(注) 平成18年調査において、調査項目を一部変更し、「その他」を加えた。

年齢階級別にみると、若い年代では「子どもが近くにいれば別居してもよい」「別居したい」の割合が多くなっているのに対し、高年齢層では「同居したい」「元気なうちは別居し、病気になったら同居したい」「配偶者がいなくなったら同居したい」の割合が多くなっている。

図 1 2 年齢階級別にみた老後生活における子どもとの同・別居について

